

すべての先生がタブレット端末を活用して授業ができるようにするための解説資料

【FAQ】よくある質問と答え

Q1: 指導案のどの部分をデジタルで置き換えて授業を行えばよいのか？

Q2: 従来型のアナログ型の授業をどのようにして改善したらよいのか？

Q3: タブレット端末を活用した授業をどのように具現化していけばよいのか？

令和5年4月24日(月)

鹿児島市立星峯西小学校

校長 谷口源太郎

授業：学習場面に応じたICT活用事例（文科省資料）

A 一斉学習

挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子どもたちの興味・関心を高めることが可能となる。

A1：教員による教材の提示

A2：教員と子ども全員によるまとめ

B 個別学習

デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。

B1：個に応じる学習

B2：調査活動

B3：表現・制作

B4：家庭学習

C 協働学習

タブレットPCや電子黒板を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子ども同士による意見交換、発表などお互いを高め合う学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

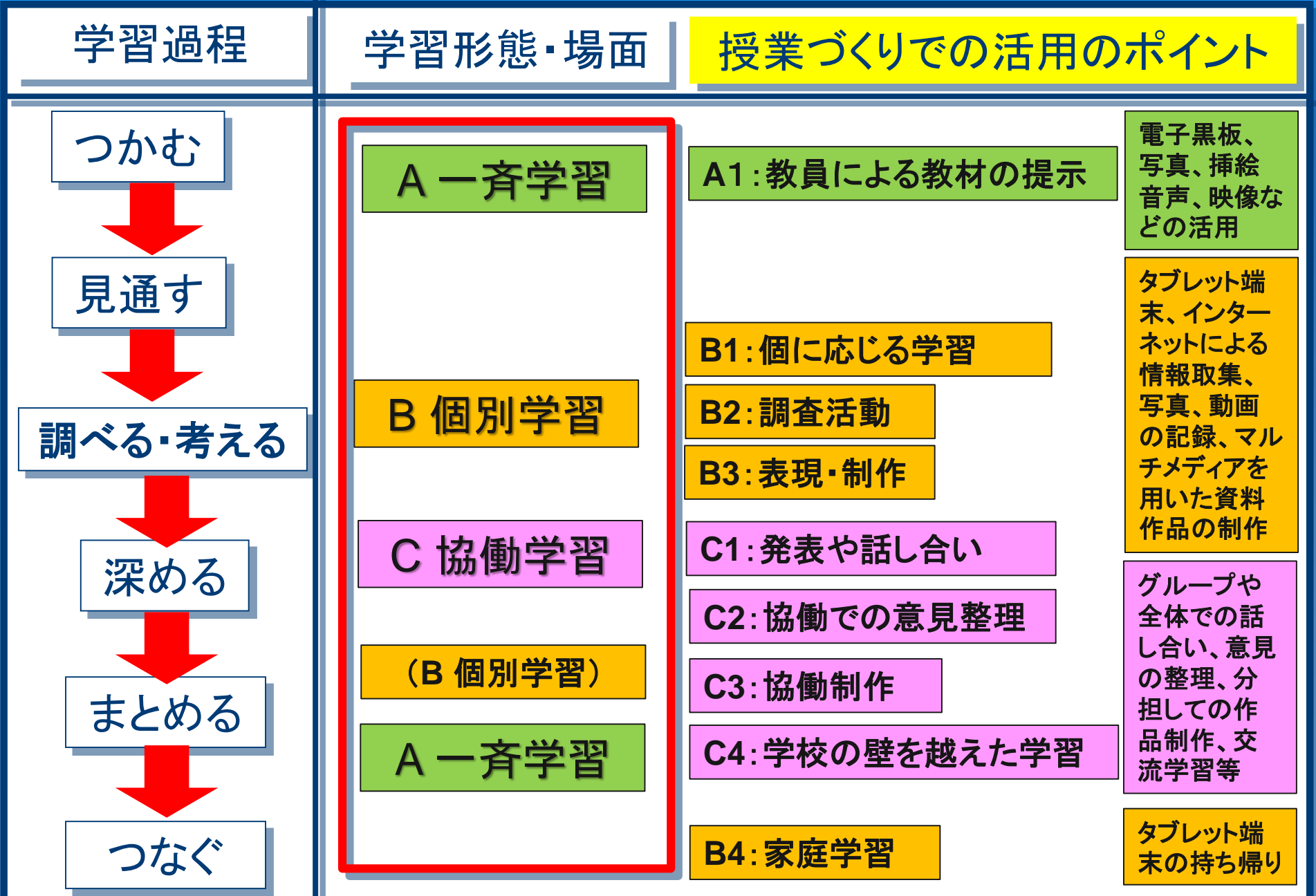
C1：発表や話し合い

C2：協働での意見整理

C3：協働制作

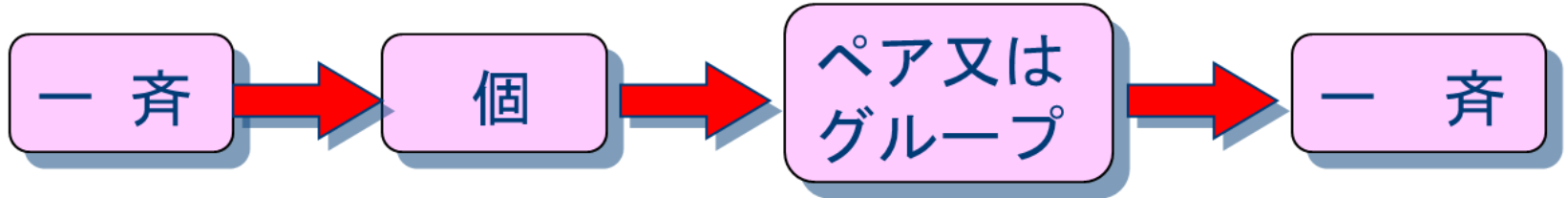
C4：学校の壁を越えた学習

課題解決型学習過程におけるICT活用の授業モデル



授業における学習過程と学習形態との関係

【学習形態の基本的な展開】



A 一斉学習

B 個別学習

C 協働学習

A 一斉学習

【学習過程】

つかむ・見通す

調べる・考える

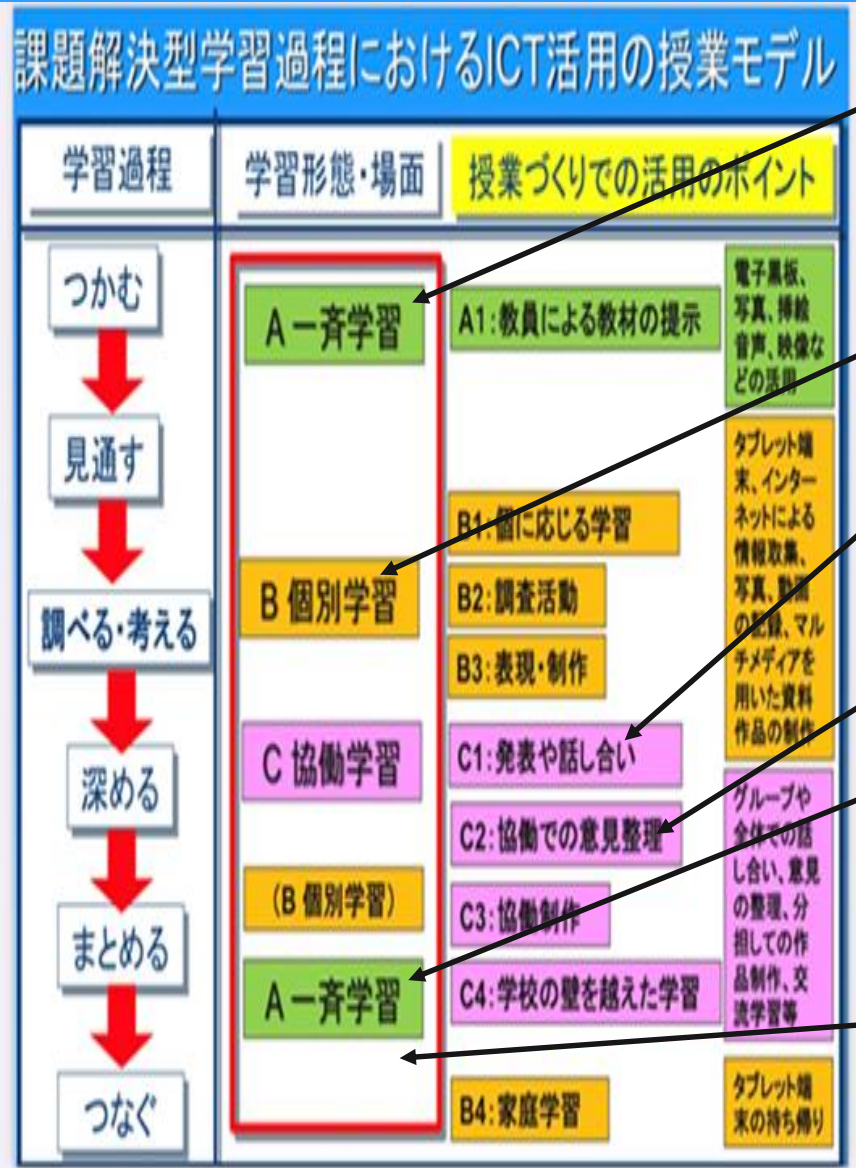
深める

まとめる・つなぐ

主体的・対話的で深い学び

タブレット端末を活用できる授業場面の構想案

2023年4月24日



【授業構想案】

- ① **A一斉学習**
教師が大型モニター等に学習問題・資料教材等を掲示し、本時のめあてを立てるとともに学習の見通しをもたせる。
- ② **B個別学習**
課題に関する自分の考えをロイロノートの付箋に書き、教師用タブレットに送信する
- ③ **C協働学習**
みんなの前で自分の考え（付箋記入）を説明・プレゼンする
- ④ **C協働学習**
各自の考えについてグループで話し合う。
- ⑤ **A一斉学習**
話し合っまとめたことをタブレット端末に記録して大型モニターに掲示して説明する
- ⑥ **B個別学習**
本時の学習内容を振り返り、確認したり、自己評価したりして記録、保存をする

【研究冊子】 授業づくりの具体例がまとめてあります

アナログとデジタルの学習指導 の融合を目指した 実践記録集（2021・2022）



鹿児島市立星峯西小学校

指導案のどの部分にタブレット端末の活用を書き加えたらよいか？

令和5年4月18日
令和5年度鹿児島市教育委員会計画学校訪問に係る指導案について

1 期 日 令和5年6月27日(火)

※指導案略案の本校提出期限は、5月〇日(〇) 市教委提出 6月20日(火) ※提出期日は後日提示します。

指導案(略案)の様式の詳細について

2 指導案の様式について

指導案の様式例(別紙)に従って作成する。
45文字×46行程度 とじしろ左側25mm MS明朝体
2の(2)に「本時の展開に当たって」の項を設けて本時での教師の働きかけについて特に工夫した手立てを具体的に記述してください。
※今回の授業参観では、全学年で1人1台のiPad(タブレット端末)が配備されたことに伴い、それを有効に活用した授業(アップルTVによる大型モニターでの提示、書画カメラ、ロイロノート、デジタルドリルなど)を日常的に活用している場面を見せるようにする。
※タブレット端末を活用する場面には、**デジタルのDの頭文字マーク**を付けるようにしてください。

授業参観のポイントとして①～③を授業に盛り込むようにする。

- ① 目標の明確化：学習課題を明確にして設定する場面での教師の働きかけ
- ② 山場の工夫：課題解決のための手立て(操作活動、資料提示、機器の使用等) 練り上げの手立て(意見交換の場、相互発表・鑑賞の場、個別指導等)
- ③ 確かな見届け：本時の学習をまとめる手立て(学習の振り返り、まとめの板書等)

* 学習過程→【 】内の言葉におおよそそろえる。 ※課題解決型の学習過程

- ア 導入段階～【つかむ】・・・めあてを提示する段階
【見通す】・・・学習方法の確認
- イ 展開段階～【考える、調べる】・・・めあてに対する予想を立てる段階
【深める】・・・主に個人→ペア・グループでの活動
- ウ 終末段階～【振り返る、まとめる】・・・本時のまとめをする段階
【生かす、つなぐ】・・・適用問題に取り組む

* 本時の目標は、子どもの姿で設定する。
本時の目標は①学びに向かう力等の情意面を、②には、思考・判断・表現、知識・理解、技能面を明記する。

表記については児童の立場で「(子どもが)～することができる。」という表現にする。

- * 「本時のめあて、本時のまとめ」を指導案の主な学習活動の枠中に明記する。
- * 評価規準を1～2入れ、評価方法についてどのような方法で見取るかを書く。
- * タブレット端末の活用場面には、教師の働きかけに **Dの頭文字を付けて表記する**。
- * 板書・発問計画については、事前に計画を立てる。単元名、めあて、まとめ等を書く。

第〇学年 〇〇科学習指導案 ※16ポイントMS明朝体

〇組 男子〇名、女子〇名、計〇〇名
指導者 〇 〇

1 単元(題材)
2 本時(〇/〇)

- (1) 目標
 - ① 関心・意欲・態度など情意面から
 - ② 思考・判断・表現、知識・理解・技能面から
- (2) 本時の展開に当たって
* この項には、本時の中での特に主張したい教師の働きかけについて述べる。子どもが～できるようにするために、(教師は)～このような手立てをとする。
- (3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ 〇印 ※印
つかむ	1 学習課題に出会う。 目標の明確化	○	○ (子どもが) 学習課題に興味・関心をもって取り組めるようにするために、(教師は) 挿絵による問題場面を提示するようにする。 ○ (子どもが) 学習課題を明確につかめるようにするために、(教師は) ～手立てを行うようにする。
	2 学習課題をつかむ。 ☆ 学習問題(めあて)は罫線で囲む。	○	
	3 解決の見通しをもつ。	○	○ すべての子どもが解決の見通しをもてるようにするために、(教師は) ～を例示するようにする。
見通す	4 自分なりの方法で調べる。 山場の工夫	○	D (子どもが) 自分なりの解決方法で取り組めるようにするために、(教師は) 自分のノートをタブレットカメラで撮影して提出箱に送信するように助言する。 ※ (子どもが) ～している。(ノート記述、行動観察) ※評価規準
	5 考え方を話し合う、全体で解き方などについて説明し合う。	○	○ ※ (子どもが) ～している。(観察、挙手、ノート等) ※評価規準
深める	6 本時の学習をまとめる。 確かな見届け	○	
	☆ まとめは二重罫線で囲む。	○	
振り返る・まとめる	7 教科の特性や内容によって、適用問題に取り組む。	○	D 本時の学習内容が定着しているかを確認するためにデジタルドリルを活用して把握するようにする。

4 評価 ※上記目標①②に対応して「～できたか。」の文末表現にする。
①

1年算数科「ひきざん」(1)

第1学年 算数科学習指導案

平成29年6月27日(火) 5校時
男子15名 女子12名 計27名
指導者 []
(学習支援員 [])

- 単元 ひきざん(1)
- 本時(5/12)

(1) 目標

- 減法(求補)の場面を式に表し、答えを求める活動に意欲的に取り組むことができる。
- 10以下の2数の減法の計算をすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

問題場面をしっかりとらえさせるために挿絵を準備する。また、減法であることをしっかりと理解させるために半具体物を操作したり図をかいたりして式や答えを考えさせる活動を設定するようにする。

3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ ○印 【評価規準(評価方法)】 ※印
つかむ	1 学習課題に出会う。 えんぴつが10ぼんありました。そのうち3ぼんけずりました。けずっていないえんぴつはなんぼんでしょうか。	10	○ 教科書の絵をもとに考えることができるように、挿絵を準備する。 ○ 場面を理解することができるように、問題文を一斉読みし、分かっていることとたずねていることを確認する。
	2 学習問題をつかむ。 けずっていないえんぴつをもとめるには、どんなしきになるだろうか。		○ 学習問題をとらえやすさするために、問題文の中の言葉を使ってめあてを立て、ノートに視写させる。
見通す	3 解決の見通しをもつ。 ・絵や図をかく。 ・教え棒やブロックを使って考える。	3	○ 解決の見通しをもつことができるようになるために、図や絵をかかせたり、半具体物を使ったりすることを伝える。
	4 自分なりに解決する。 ・10本のえんぴつのうち、3ぼんけずった。けずったえんぴつをひくと、けずっていないえんぴつは7本になるからひき算の式になる。 ・式 10-3 ・答え 7本	7	○ よりよい方法を選択して、式と答えを導き出せるように助言する。 ※ 進んで操作活動をしたり、既習の考え方をういたりして、式と答えを求めようとしている。(ノート記述)
深める	5 考え方を出し合い、全体で式と答えを確かめる。 ・式 10-3=7 ・答え 7本	15	○ 図をもとに計算のしかたを視覚的にとらえられるようにするために、図と式を結び付けて板書する。
	7 本時の学習を振り返りまとめる。 けずっていないえんぴつのかずをもとめるときは、ひきざんになる。	5	○ 全児童が本時の学習についてしっかり理解できているか確認するために、一斉の形態で板書し、ノートに書かせる。
生かす	8 適用問題に取り組む。	5	○ 本時のさらなる習熟を図るために、適用問題に取り組ませる。 ※ 減法の計算をしている。(ワークシート)

4 評価

- 減法(求補)の場面を式に表し、答えを求める活動に意欲的に取り組むことができたか。
- 10以下の2数の減法の計算をすることができたか。

【授業構想案】

① A一斉学習(つかむ、見通す)

教師が大型モニター等に学習問題・資料教材等を掲示し、本時のめあてを立てるとともに学習の見通しをもたせる。

② B個別学習(調べる、考える)

課題に関する自分の考えをロイロノートの付箋に書き、教師用タブレットに送信する

③ C協働学習(深める)

みんなの前で自分の考え(付箋記入)を説明・プレゼンする

④ C協働学習(まとめる)

各自の考えについてグループで話し合う。

⑤ A一斉学習(振り返る)

話し合ってまとめたことをタブレット端末に記録して大型モニターに掲示して説明する

⑥ B個別学習(確かめる、つなぐ)

本時の学習内容を振り返り、確認したり、自己評価したりして記録、保存をする

2年国語科「1年生でなら ったかん字」②

- 1 単元 1年生でならったかん字② かん字のひろば
 2 本時 (2/2)

- (1) 目標
 ① 絵を見て想像を広げて、既習の漢字を使って文を書く活動に意欲的に取り組むことができる。
 ② 語と語を適切につないで、既習の漢字を使って文を書くことができる。
 (2) 本時の展開に当たって
 1年生で習った漢字を含む語と語を適切につないだ文を作ることができるようにするために、正しい読み方ができているか確認する場を設定したり、短文を作る前に各々の場面に出ている語を使いながら自由にお話作りの活動を設定したりする。

過程	主な学習活動	単 時 (分)	教師の具体的な働きかけ 【評価基準】(評価方法)	○印 ※印
つかむ	1 63ページの絵を見て、学習課題に出会う。		○ 学習課題に気づかせるために、63ページを拡大コピーした絵を見せ、「誰がどんなことをしている場面か」を問いかけるようにする。	
	2 学習課題をつかむ。 これまでに習った漢字を使って、絵の中の学校のようなすあらかわす文を書こう。	5	○ 学習課題をしっかりと把握できるようにするために、板書事項をノートに視写させ、めあては、青で囲むように助言する。	
見通す	3 学習の進め方を確認する。 ・ 63ページの漢字の読み方を確かめる。 ・ 絵を見て、それぞれの場面から分かることを発表する。 ・ 絵の中の漢字を使って短文を書く。	5	○ 子どもが解決の見通しをもてるようにするために、「学習の進め方」を提示し、本時の大きな流れと、課題解決の内容と方法、一人学びの具体的な仕方などを教師が説明するようにする。	
	4 63ページの漢字を音読する。 ・ 先生(せんせい) ・ 手(て) ・ 立つ(たつ)		○ 既習漢字を想起させるために、絵に出てくる16の言葉を短冊カードに書き、黒板に提示し音読させるとともに、教科書に読み仮名を書かせる。 ※ 1年生で習った漢字を読むことができている。(子どもの様子または教科書)	
考える・調べる	5 それぞれの場面でどのようなことをしているか発表する。 ・ 教室で、算数のひき算の勉強をしています。 ・ 音楽室で、歌を歌っています。 ・ 保健室で、視力検査をしています。	10	○ 各場面を視覚的にとらえやすいようにするために、拡大コピーしたさし絵を提示し、さし絵と言葉を対照させて、イメージを膨らませるようにする。 ※ 絵を見て、想像を広げて、文を考えている。(子どもの発言)	
	6 それぞれの場面に、教科書に出てくる言葉を使って短文づくりをする。 ・ 女の子は、かだんに赤い花と白い花がさいているのを見つけた。 ・ 男の子が、「93-67」の問題の答えを手をあげて答えました。 ・ 1年生が、正門から出て家へ帰ろうとしています。	20	○ 「は」と「を」を正しく使った文を作ろうにさせるために、絵と言葉が使えるようなプリントを準備する。 ○ 絵に出てきた16の言葉を全て使うように助言する。 ○ 早く終わったら声に出して読ませ、主述の整った文になっているか、「は」と「を」を正しく使っているか確かめさせる。 ※ 語と語を適切につないで、文を書いている。(プリントへの記述)	
振り返る・生かす	7 本時でがんばったことや楽しかったことを発表し、本時の学習をまとめる。 絵の中のかんじをふくんだことばを つかって、文を作ることができた。	5	○ 本時の学習を振り返り、絵の中のかんじを含む言葉を使って上手に文を作ることができたことや楽しくお話を作ることができたことなどを発表させるようにする。	
	8 次の学習を知る。		○ 書いた文を短冊カードに書いて、発表することを知らせ、意欲をもたせる。	

【授業構想案】

- ① **A一斉学習 (つかむ、見通す)**
 教師が大型モニター等に学習問題・資料教材等を掲示し、本時のめあてを立てるとともに学習の見通しをもたせる。
- ② **B個別学習 (調べる、考える)**
 課題に関する自分の考えをロイロノートの付箋に書き、教師用タブレットに送信する
- ③ **C協働学習 (深める)**
 みんなの前で自分の考え(付箋記入)を説明・プレゼンする
- ④ **C協働学習 (まとめる)**
 各自の考えについてグループで話し合う。
- ⑤ **A一斉学習 (振り返る)**
 話し合ってまとめたことをタブレット端末に記録して大型モニターに掲示して説明する
- ⑥ **B個別学習 (確かめる、つなぐ)**
 本時の学習内容を振り返り、確認したり、自己評価したりして記録、保存をする

- 4 評価
 ① 絵を見て想像を広げて、既習の漢字を使って文を書く活動に意欲的に取り組むことができたか。
 ② 語と語を適切につないで、既習の漢字を使って文を書くことができたか。

平成29年6月27日(火) 5校時
 男子9名 女子9名 計18名
 指導者 津田 浩一
 (学習支援担当 津田 浩一)

3年理科「こん虫を調べよう」

1 単元 こん虫を調べよう

2 本時 (2/8)

(1) 目標

- ① いろいろな昆虫の体のつくりなどに興味・関心をもち、意欲的に昆虫の仲間を調べることができる。
- ② モンシロチョウの体のつくりと比較しながら、共通点や差異点を見出すことで昆虫の体のつくりのきまりについて理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

既習内容のモンシロチョウの体のつくりと他の虫を比較する活動を通して、いろいろな虫の共通点や差異点に着目させるために、図や写真を活用しながら個々の考えを明確にもたせグループで協働的・対話的な話し合いを行うようにする。また、理科用語カードを使い、昆虫の特徴をまとめるようにする。

3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ 【評価規準(評価方法)】 ※印
つかむ	1 既習内容を振り返る。 ・モンシロチョウのからだは、頭・胸・腹からできていて、足が6本あったよ。 2 学習課題をつかむ。 虫のからだのつくりは、モンシロチョウと同じなのだろうか。	6	○ 昆虫であるかどうかを調べられるようにするために、モンシロチョウの体の部位や特徴を振り返る活動を設定する。 ○ 本時の学習への意欲をもたせ、学習課題の焦点化を図れるようにするために、身近な虫を提示するようにする。
見通す	3 予想する。 ・バッタやトンボはつくりが似ているね。 ・ダンゴムシは、足が多いから違うかな。	5	○ 問題意識をもたせるために、昆虫の定義に着目させたり、形や動きを考えさせたりして予想させる。
調べる	4 図や写真を基に調べる。 ・ダンゴムシは、足がいっぱいある。 ・バッタやトンボは3つの体に分かれている。 ・クモは、足が8本ある。	10	○ 様々な昆虫の仲間分けができるようにするために、いろいろな昆虫の図や写真を使って体のつくりを調べる活動を設定する。 ○ 体の分け方や足の数に着目させるよう助言する。
深める	5 結果を考察し、話し合う。 ・バッタやトンボは、モンシロチョウと体のつくりが同じで頭・胸・腹に分かれ、足が6本ある。 ・クモやダンゴムシは、足の数が多いので昆虫の仲間ではない。	15	○ 個の考えが次第に深まるようにするために、個人で考察した後、グループで考えを交流し、全体で共有するようにする。 ※ モンシロチョウと他の虫のつくりを比較し、昆虫かどうかを確認し、自分の考えを表現している。(発表内容、ノート記述)
振り返る	6 本時をまとめる。 バッタやトンボはこん虫、ダンゴムシやクモはこん虫ではない。からだのつくりはちがう。	7	○ 理科用語カードを使い、基礎・基本の習得を図るために、グループで共通して出てきた言葉を使ってまとめるよう助言する。
生かす	7 本時を振り返る。 ・体のつくりは同じだけど、形は違った。 ・育ち方は、どの昆虫も同じかな。	2	○ 次時の学習へつなげるために、図や写真を使い、育ち方はどうなっているのか疑問をもたせる。

4 評価

- ① いろいろな昆虫の体のつくりなどに興味・関心をもち、意欲的に昆虫の仲間を調べることができたか。
- ② モンシロチョウの体のつくりと比較しながら、共通点や差異点を見出すことで昆虫の体のつくりのきまりについて理解することができたか。

【授業構想案】

① A一斉学習 (つかむ、見通す)

教師が大型モニター等に学習問題・資料教材等を掲示し、本時のめあてを立てるとともに学習の見通しをもたせる。

② B個別学習 (調べる、考える)

課題に関する自分の考えをロイロノートの付箋に書き、教師用タブレットに送信する

③ C協働学習 (深める)

みんなの前で自分の考え(付箋記入)を説明・プレゼンする

④ C協働学習 (まとめる)

各自の考えについてグループで話し合う。

⑤ A一斉学習 (振り返る)

話し合ってまとめたことをタブレット端末に記録して大型モニターに掲示して説明する

⑥ B個別学習 (確かめる、つなぐ)

本時の学習内容を振り返り、確認したり、自己評価したりして記録、保存をする

4年算数科「1けたでわるわり算」(少人数指導)

1 単元 1けたでわるわり算
2 本時 (6/12)

(1) 目標

- ① (3位数) ÷ (1位数) の計算のしかたを考える活動に意欲的に取り組むことができる。
- ② (3位数) ÷ (1位数) の計算を位ごとに分けて考え、筆算で計算することができる。

(2) 本時の展開に当たって

(2位数) ÷ (1位数) の考え方をもとに考えられるようにするために、色紙図やアルゴリズムカードを利用し、視覚的にとらえさせ、教師の支援を交えながら具体的な操作活動を設定する。

3 実際【じゅくりコース】

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ ○印 【評価規準(評価方法)】 ※印
つかかむ	1 学習問題に出会う。 639まいの色紙を3つの組で同じ数ずつ分けると、一組分は何まいになるか。 式 639 ÷ 3	7	○ 色紙図を貼り、これまでの問題との違い100の束があることに気付かせるようにする。
	2 学習問題をつかむ。 どんな束で、どのように分ければ計算できるだろうか。		○ 学習課題をしっかりとつかませるために既習問題との違いはどこか考えるようにするとともに、今までの方で解決できないかを問いかけ、児童の言葉であてをたてるようする。
見通す	3 解決の見通しをもつ。 ・実際に分ける。・絵や図をかく。 ・計算で考える。・筆算をする。	3	○ 解決の見通しをもつことができるようにするために、具体物や半具体物を操作して考えるようにさせる。
考える	4 自分なりに解決する。 ・自分で図や式を使って考える。 600 ÷ 3 = 200 30 ÷ 3 = 10 9 ÷ 3 = 3 合わせて200 + 10 + 3 = 213 答え 213枚	7	※ 進んで操作活動をしたり、既習の見方・考え方をういたりして、商を求めようとしている。 (ノートの記述内容) ○ 一人一人の児童が確実にできるようにするために担任や支援員が学習状態を把握しながら、関わるようにする。
	5 考え方を出し合い、全体で解き方について話し合う。 ・100の束、10の束、1のばらの3つに分ければよい。 ・筆算の仕方を知る。		※ 10のまとまりを使って考えるとよいことが理解できている。(児童の発言内容) ○ 「どこに」商が立つのかを意識できるように、何を(100の束か、10の束か、それとも1のばらか)分けるのかを考えさせる。
深める	6 本時の学習をまとめる。 3けたの数を百の位(100の束)、十の位(10の束)、一の位(1のばら)に分けてそれぞれわり算をする。	5	○ 児童の理解を確認するために、児童の言葉を使いながら、一緒に学習したことをまとめていく。
生かす	7 適用問題に取り組み、同じ考え方ができるか確かめる。	13	○ 本時の理解を深めるために適用問題に取り組みせるようにする。
	8 次時の学習内容を知る。		※ (3位数) ÷ (1位数) の筆算ができている。 (ノートの記述内容) ○ 次時の学習内容の見通しを持たせる。

4 評価

- ① (3位数) ÷ (1位数) の計算のしかたを考える活動に意欲的に取り組むことができたか。
- ② (3位数) ÷ (1位数) の計算を位ごとに分けて考え、筆算で計算することができたか。

【授業構想案】

① A一斉学習 (つかむ、見通す)

教師が大型モニター等に学習問題・資料教材等を掲示し、本時のめあてを立てるとともに学習の見通しをもたせる。

② B個別学習 (調べる、考える)

課題に関する自分の考えをロイロノートの付箋に書き、教師用タブレットに送信する

③ C協働学習 (深める)

みんなの前で自分の考え(付箋記入)を説明・プレゼンする

④ C協働学習 (まとめる)

各自の考えについてグループで話し合う。

⑤ A一斉学習 (振り返る)

話し合ってまとめたことをタブレット端末に記録して大型モニターに掲示して説明する

⑥ B個別学習 (確かめる、つなぐ)

本時の学習内容を振り返り、確認したり、自己評価したりして記録、保存をする

4年算数科「1けたでわるわり算」(少人数指導)

- 1 単元 1けたでわるわり算
2 本時 (6/12)

(1) 目標

- ① (3位数) ÷ (1位数) の計算のしかたを考える活動に意欲的に取り組むことができる。
② (3位数) ÷ (1位数) の計算を位ごとに分けて考え、筆算で計算することができる。

(2) 本時の展開に当たって

- (2位数) ÷ (1位数) の考え方をもとに考えられるようにするために、色紙図やアルゴリズムカードを利用し、視覚的にとらえさせ、自力による具体的な操作活動を設定する。

3 実際【チャレンジコース】

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ 【評価規準(評価方法)】
つかむ	1 学習問題に出会う。 639まいの色紙を3つの組で同じ数ずつ分けると、一組分は何まいになるか。	7	○ 教科書の絵をもとにこれまでの問題との違い100の束があることに気付かせるようにする。
	式 $639 \div 3$ 2 学習課題をつかむ。 どんな束で、どのように分ければ計算できるだろうか。		○ 学習課題をしっかりとつかませるために既習問題との違いはどこか考えるようにするとともに、今までの方法で解決できないかを問いかけ、児童の言葉でめあてをたてるようする。
見通す	3 解決の見通しをもつ。 ・図をかく。・計算で考える。 ・筆算をする。	5	○ 解決の見通しをもつことができるようにするために、前時までにどのようにして考えたか助言する。
考える	4 自分なりに解決する。 ・自分で図や式を使って考える。 $600 \div 3 = 200$ $30 \div 3 = 10$ $9 \div 3 = 3$ 合わせて $200 + 10 + 3 = 213$ 答え 213枚	7	※ 進んで操作活動をしたり、既習の見方・考え方を借りたりして、商を求めようとしている。(ノートの記述内容)
深める	5 考え方を出し合い、全体で解き方について話し合う。 ・100の束、10の束、1のばらの3つに分ければよい。 ・筆算の仕方を知る。	10	※ 10のまとまりを使って考えるとよいことが理解できている。(児童の発言内容) ○ 「どこに」商が立つのかを意識できるように、何を(100の束か、10の束か、それとも1のばらか)分けるのかを考えさせる。
振り返る	6 本時の学習をまとめる。 3けたの数を百の位(100の束)、十の位(10の束)、一の位(1のばら)に分けてそれぞれわり算をする。	5	○ 児童の理解を確認するために、児童の言葉を使いながら、一緒に学習したことをまとめていく。
生かす	7 適用問題に取り組み、同じ考え方ができるか確かめる。 8 次時の学習内容を知る。	8	○ 本時の理解を深めるために適用問題に数多く取り組ませるようにする。 ※ (3位数) ÷ (1位数) の筆算ができていない。(ノートの記述内容) ○ 次時の学習内容の見通しを持たせる。

【授業構想案】

① A一斉学習 (つかむ、見通す)

教師が大型モニター等に学習問題・資料教材等を掲示し、本時のめあてを立てるとともに学習の見通しをもたせる。

② B個別学習 (調べる、考える)

課題に関する自分の考えをロイロノートの付箋に書き、教師用タブレットに送信する

③ C協働学習 (深める)

みんなの前で自分の考え(付箋記入)を説明・プレゼンする

④ C協働学習 (まとめる)

各自の考えについてグループで話し合う。

⑤ A一斉学習 (振り返る)

話し合っただけのまとめたことをタブレット端末に記録して大型モニターに掲示して説明する

⑥ B個別学習 (確かめる、つなぐ)

本時の学習内容を振り返り、確認したり、自己評価したりして記録、保存をする

4 評価

- ① (3位数) ÷ (1位数) の計算のしかたを考える活動に意欲的に取り組むことができたか。
② (3位数) ÷ (1位数) の計算を位ごとに分けて考え、筆算で計算することができたか。

平成29年6月27日(火) 5校時
男子12名 女子17名 計29名
指導者

5年国語科「事実と考えを区別して活動を報告する文章を書こう」

1 単元 事実と考えを区別して、活動を報告する文章を書こう
(教材:「次への一歩 ― 活動報告書」光村5年)

2 本時 (9/10)

(1) 目標

- ① 文章全体の構成や表現に気をつけて、進んで活動報告書作成に取り組むことができる。
 - ② 活動報告書の下書きを推敲し、活動報告書を仕上げるができる。
- (2) 本時の展開に当たって
子どもが自分の書いた報告書の下書きをよりよくすることができるようにするために、推敲の観点(事実と考えの区別, 小見出しと内容の整合性, できなこととできなかったことが明確に書かれているか, 一文の長さが適切か, 主語と述語の対応)を提示しながら, 3人グループでの学び合いの活動を設定してお互いに助言し合い, よりよい文章に仕上げられるようにする。

3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ ○印【評価規準(評価方法)】※印
つかむ	1 学習課題に出会う。 2 学習課題をつかむ。 分りやすい活動報告書にするために下書きをどのように推敲すればよいだろうか。	5	○ 前時までの学習を振り返らせるために, 宿泊学習中の写真や宿泊学習のしおり等を提示して, 学習課題につけるようにする。 ※ 本時の学習を理解し意欲的に活動しようとしている。(児童の発表から)
見通す	3 解決の見通しをもつ。 (学習の進め方) (1) 自分の文章を読み返す。(一人で) (2) 文章を読み合う。(3人グループ) (3) 学習のまとめをする。(全体で) (推敲の観点) 事実と考えの区別, 小見出しと内容の整合できたこと, できなかったこと 一文の長さ 主語と述語の対応 など	3	○ 本時の学習課題についてどのように解決すればよいか見通しをもたせるために, 学習の進め方について具体的に学習の手順を提示して確認できるようにする。 ○ 分りやすい活動報告書にするために, 推敲の観点を具体的に示しながら推敲できるようにする。
調べる	4 自分の文章を観点に沿って読み返す。(一人学び) 5 各グループで文章を発表し合い, 観点に沿って助言し合う。(グループ学習)	20	○ 児童が文章を推敲しやすくするために, 推敲の観点を明確にする。 ※ 観点に沿って自分や友達の記事を推敲している。(ワークシート)
深める	6 お互いの活動報告書を読み合い, 気付いたことや推敲する時に気をつけたことを全体で共有する。(一斉)	10	○ 全体の構成や文末表現に着目できるように, 参考になる文章を見つけておくよう助言してからお互いの活動報告書を読み合うようにする。
振り返る	7 本時の学習をまとめる。 観点にそって推敲すれば, よりよい報告の文章にすることができる。	5	○ 学習したことを今後, 推敲する際生かせるようにするために, 児童の言葉でまとめるようにする。 ※ よりよい文章の書き方について正しく理解している。(ノート記述・発言)
生かす	8 次時の学習について話し合う。	2	○ 報告文の発表の目的意識と相手意識を明確にして推敲できるようにするために, 本時の学習が生かされる場面を想起させるようにする。

【授業構想案】

① **A一斉学習 (つかむ、見通す)**

教師が大型モニター等に学習問題・資料教材等を掲示し、本時のめあてを立てるとともに学習の見通しをもたせる。

② **B個別学習 (調べる、考える)**

課題に関する自分の考えをロイロノートの付箋に書き、教師用タブレットに送信する

③ **C協働学習 (深める)**

みんなの前で自分の考え(付箋記入)を説明・プレゼンする

④ **C協働学習 (まとめる)**

各自の考えについてグループで話し合う。

⑤ **A一斉学習 (振り返る)**

話し合ってまとめたことをタブレット端末に記録して大型モニターに掲示して説明する

⑥ **B個別学習 (確かめる、つなぐ)**

本時の学習内容を振り返り、確認したり、自己評価したりして記録、保存をする

4 評価

- ① 文章全体の構成や表現に気をつけて、進んで活動報告書作成に取り組むことができたか。
- ② 活動報告書の下書きを推敲し、活動報告書を仕上げることができたか。

6年道徳科「自分の心に誠実に」(誠実・明朗)

第6学年 道徳学習指導案

平成29年6月27日(火) 5校時
男子10名 女子9名 計19名
指導者

1 主題名 「自分の心に誠実に」 1-(4) 誠実・明朗
資料名 「のりつけされた詩」 (出典: みんなのどうとく 6年 学研)

2 本時
(1) 目標

- ① 自分自身の生き方を見つめ、自分自身のもつ心の葛藤を乗り越え、誰に対しても相手の対場に立ち、誠実に行動しようとする気持ちを高めることができる。
- ② 自分本位な考えや楽観的な考えなどから、安易な行動を選択してしまいがちであることに気付き、進んで誠実に行動していくことの大切さを自らの体験場面と関係づけながら理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

児童が自分のこととして課題について考えられるようにするために、「あなただったらどうしますか?」という発問を設定し、補助発問や話し合いを通して、主人公のもつ誠実な心に気付かせていくとともに、終末段階で自分を振り返る場を設定し、誠実な心について自分を見つめなおしていただけるような授業を展開していきたい。

3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ: ○印 評価規準(評価方法): ※印
つかむ・見通す	1 アンケートをもとに、これまでの経験を振り返る。	3	○ 正直に行動できなかったことについてのアンケート結果を提示し、自分たちの実態から、正直に行動するためにはどんなことが大切かとおめあてにつなげていくようにする。
	2 おめあてを確認する。 正直に行動するためには、どんな気持ちをもつことが大切だろうか。	2	
考える	3 資料の前半の範読を聞き、和枝さんの行動について話し合う。 (1) 文集係の明子さんに詩の出来栄をばめられた後、和枝さんは心の中で、 <u>なんだ</u> ことを考えたでしょう。 ・このまま黙ってしよう。 ・打ち明けてやり直そう。 (2) あなたが和枝さんだったらどう行動しますか? ○ 言う(誠実) ・自分の心にうそをつけないから。 ・ばれてしまうかもしれないから。 ○ 黙っている(不誠実) ・黙っていれば、ばれないから。 ・友達に何か言われそうだから	15	○ 和枝の最終判断が児童に分からないようにするため、資料の前半部分のみ範読する。 ○ 和枝が詩を書くことが上手であり、友達もそれを認めていること、また和枝がなかなか詩が書けずに悩んでいる状況をまず抑え、楽しく真似たわけではないことに気付かせる。 ○ 自分だったらという視点で考えられるように「あなただったらどうするか」を聞いたり、切り返し発問をしたりして、自分の発言をさらに深く考えられるようにしていく。 ○ 自分の考えをしっかりと持てるように、ワークシートに理由まで書かせるようにする。
	4 資料の後半部分の範読を聞き、和枝さんはなぜ正直に行動できたのかを考える。 (1) なぜ和枝さんは正直に先生に打ち明けたのでしょうか?	15	○ 和枝の正直な行動の裏には誠実な心があることに気付かせるように、行動の理由を考え、いくとともに、誠実な行動をとったことが自分や相手、社会にとってどんな意義、価値があるかを考えさせられるようにする。 ※ 誠実に行動することの意義や価値について自分の体験場面と結びつけながら考えをまとめている。(ワークシート「発表」)
深める	5 学習したことをまとめる。 正直に行動するためには、誠実な心をもつことが大切。	5	
振り返る	6 授業の感想やこれからの自分についての考えを書く。	4	○ これから誠実に前向きに生きていこうとする意見が書けている児童に発表させ、ポジティブな雰囲気できえられるようにする。
	7 教師の説話を聞く。	1	

【授業構想案】

① **A一斉学習 (つかむ、見通す)**

教師が大型モニター等に学習問題・資料教材等を掲示し、本時のめあてを立てるとともに学習の見通しをもたせる。

② **B個別学習 (調べる、考える)**

課題に関する自分の考えをロイロノートの付箋に書き、教師用タブレットに送信する

③ **C協働学習 (深める)**

みんなの前で自分の考え(付箋記入)を説明・プレゼンする

④ **C協働学習 (まとめる)**

各自の考えについてグループで話し合う。

⑤ **A一斉学習 (振り返る)**

話し合っただけでまとめたことをタブレット端末に記録して大型モニターに掲示して説明する

⑥ **B個別学習 (確かめる、つなぐ)**

本時の学習内容を振り返り、確認したり、自己評価したりして記録、保存をする

特別支援学級(知的)3年国語科 「かたかなでなまえをかこう」

- 1 単元 かたかなでなまえをかこう
2 本時 (2/3)

(1) 目標

- さいころゲームやパーツごとに組み合わせて片仮名を完成させるなどの操作活動を通して、意欲的に取り組むことができる。
- 片仮名をパーツごとに組み合わせる活動を通して、マスのどの部分に書けばよいか気付くことができる。

(2) 本時の展開にあたって

片仮名をスムーズに読むことができるようにするために、名前に出てくるサ・タ行のさいころゲームを最初にやってみる。読みを確認できるようにする。マスの空間を捉えさせることができるようにするために、マスは4色にブロック分けしたり、パーツごとに組み合わせる活動をしたりして、文字のどのパーツがどれくらいマスを占めるのか理解できるようにする。

3 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	教師の具体的な働きかけ 【評価規準(評価方法)】
つかむ・見通す	1 さいころゲームをする。 2 前時の学習を振り返る。 3 活動とめあての確認をする。 「そうた」をかたかなでかこう。	15	○ 「そうた」の文字がスムーズに読めるようにするために、さいころで出てきた文字を名前と関連付けて読ませる。 ○ 学習への見通しを持たせるとともに、本時のめあてと学習への流れを明確にできるようにするために、学習の流れを視覚的に提示する。
考える・深める	4 いろいろな活動を通して「ソウタ」の字形を覚える。 (1)「ソ」と「タ」の筆順を確認する。 (2)一画ごとにばらしたパーツを組み合わせて文字を完成する。 (3)書く練習をする。 ・指書き ・空書き ・なぞり書き ・写し書き など	27	○ 学習の流れをより理解できるようにするために、前時で学習した「ウ」をパーツごとに組み合わせさせる。 ○ 筆順がよく分かるようにするために、一画ごとに色分けしてお手本を書くようにする。 ○ パーツをマスのどこに置けばよいかよく分かるようにするために、4色にブロック分けしたマスを使わせるようにする。 ○ 正しい筆順についてあるが確認させるために、ブロックごとに注目させるようにする。 ○ 字形をしっかり覚えることができるようにするために、いろいろな書き方で書かせてみる。 ※ 教師の助けを受けながら、書く位置に気を付けて片仮名を書くようにする。(行動観察)
振り返る	5 本時の学習をまとめる。 「そうた」をかたかなでかくことができた。 6 学習を振り返る。	3	○ 児童が書いた文字と一緒に見て、上手に書けたか確かめる。 ○ それぞれの文字をマスのどの部分に書いたらよいかを確かめ、児童の良かったところを賞賛する。

4 評価

- さいころゲームやパーツごとに組み合わせて片仮名を完成させるなどの操作活動を通して、意欲的に取り組むことができたか。
- 片仮名をパーツごとに組み合わせる活動を通して、マスのどの部分に書けばよいか気付くことができたか。

【授業構想案】

① A一斉学習（つかむ、見通す）

教師が大型モニター等に学習問題・資料教材等を掲示し、本時のめあてを立てるとともに学習の見通しをもたせる。

② B個別学習（調べる、考える）

課題に関する自分の考えをロイロノートの付箋に書き、教師用タブレットに送信する

③ C協働学習（深める）

みんなの前で自分の考え（付箋記入）を説明・プレゼンする

④ C協働学習（まとめる）

各自の考えについてグループで話し合う。

⑤ A一斉学習（振り返る）

話し合っただけのまとめたことをタブレット端末に記録して大型モニターに掲示して説明する

⑥ B個別学習（確かめる、つなぐ）

本時の学習内容を振り返り、確認したり、自己評価したりして記録、保存をする

平成29年6月27日(火)5校時
女子1名 男子0名 計1名
指導者 〇〇〇〇

- 1 単元 ジュースをかおう
- 2 本時 (1/4)

(1) 目標

- ① 自動販売機でジュースを買う際の硬貨の出し方を考えたり、操作を行ったりする活動に意欲的に取り組むことができる。
 - ② 4種類の硬貨(500円, 100円, 50円, 10円)を組み合わせて、複数のパターンでジュースの代金を支払うことができる。
- (2) 本時の展開に当たって
- 子どもが各硬貨間の等価を理解し、様々な硬貨の組み合わせで代金の支払いができるようにするために、イラスト入りのワークシートを使って複数パターンの支払い方を調べさせたり、実際におもちゃの硬貨を操作させたりする。また、本時の学習の成果を実感できるようにするために、iPadアプリ「自動販売機」を使い、お金を支払ってジュースを買う疑似体験ができるようにする。

3 実際

時	主な学習活動	時 (分)	教師の具体的な働きかけ 【評価規準(評価方法)】 ※印
つかむ	1 学習課題に出会う。	7	○ 本単元の学習に意欲的に活動に臨めるようにするために、校区内の自販機でジュースを買う場面の動画を見せるようにする。
	2 学習課題をつかむ。 ジュースをかおうときのおかねのだし方はどうすればいいか。		○ 本時のめあてへ焦点化できるようにするために、買い物を経験について振り返るようにする。 ※ 自分1人で好きなジュースを買う活動に興味関心を抱いている。(行動観察、発言等)
見通す	3 解決の見通しをもつ。 (1) お金の種類を思い出す。 (2) お金の出し方を考える。 (3) アプリを使って練習する。 (4) 本時の学習を振り返る。	5	○ 本単元の学習や本時の学習に見通しをもって臨むことができるようにするために、学習計画表や本時の学習の順番を提示し、子どもと一緒に確認できるようにする。
	4 4種類の硬貨(500円, 100円, 50円, 10円)の言い方や大小関係を確認する。		○ 本時の学習に自信をもって臨めるようにするために、絵カードを使って既習事項である硬貨の種類や大小関係を確認できるようにする。
考える	5 自販機でジュースを買う際の硬貨の出し方について、複数パターンを調べる。	15	○ 複数パターンの支払い方を自力解決できるようにするために、イラスト入りのワークシートを使って、調べさせるようにする。 ○ 各硬貨間の等価を理解できるようにするために、ヒントカードを提示するようにする。 ※ 意欲的に硬貨の出し方を考えている。(行動観察、発言) ※ 4種類の硬貨を組み合わせて、複数のパターンで支払っている。(ワークシート)
	6 iPadアプリ「自動販売機」を使い、硬貨を出してジュースを買う疑似体験をする。		8
振り返る	7 本時の学習についてまとめる。 しなもののねだんにあわせておかねをくみあわせてはらえばいい。	5	○ 本時の学習の達成感を味わったり、次時の学習への意欲をさらに高めたりできるようにするために、自己評価をさせたり、良かったところを賞賛したりするようにする。
生かす	8 次時の学習について話し合う。	5	○ 次時の学習に見通しが持てるようにするために、本時で支払った代金にはお釣りが出るものがあることをiPadを使って示すようにする。

4 評価

- ① 自動販売機でジュースを買う動画を見ることで、一人でジュースを買う意識を高め、意欲的に硬貨の出し方を考えたり、操作を行ったりすることができたか。
- ② 4種類の硬貨(500円, 100円, 50円, 10円)を組み合わせて、複数のパターンでジュースの代金を支払うことができたか。

特別支援学級(情緒)

5年算数科「ジュースをかおう」

【授業構想案】

① A一斉学習 (つかむ、見通す)

教師が大型モニター等に学習問題・資料教材等を掲示し、本時のめあてを立てるとともに学習の見通しをもたせる。

② B個別学習 (調べる、考える)

課題に関する自分の考えをロイロノートの付箋に書き、教師用タブレットに送信する

③ C協働学習 (深める)

みんなの前で自分の考え(付箋記入)を説明・プレゼンする

④ C協働学習 (まとめる)

各自の考えについてグループで話し合う。

⑤ A一斉学習 (振り返る)

話し合っただけをまとめたことをタブレット端末に記録して大型モニターに掲示して説明する

⑥ B個別学習 (確かめる、つなぐ)

本時の学習内容を振り返り、確認したり、自己評価したりして記録、保存をする

終